通仁授業

特別
へ13
3633
21

特
門ベ13
號3633
巻21
(47)

昭和二十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈



通仁性言葉自序

偽乃文字を加えば人乃爲
是順城乃山路はみち親の
爲夫乃爲命を守り賣り乃
要乃用士と。義理ふ誘えば
祿をきわ。夜毎八昔。附毎ふ翠乃

宮内省圖書寮文庫

太まつ蒲雲。客と歎しく
金を乞る。是も勒り様なる。其意
らるを初り始げく拜るといつる
人乃爲。左すれば極じを善乃
端。班發端を拜ふ。かの極トが
大會し。内を傷るもく来ると。

金成さんぐ人の乃。芭蕉の俳の發句
あとゝ秋の會。撞い上堂を。洗物を。
七ツ周ぐ。元を揚。帰ふ支度も一越
向。吉原翫い弥ぐふへふ橋仲町。
禄土移。大通不通。家書の爲ま。
座蒲流息よ集ふく。ふとれく。

紙帳を。開あけ覗のぞかせども。
一ッと實乃事ごとく形。本屋乃爲
ふ迷ま多稽べ。風ふうぢ見も人のあ。
思ひ所ところ完閲。

安永五丙申年
めぐり年季春

東都蓮葉少人帰橋
戯誌

一巻

ア毋んさん。花も。生る間ハ。ちるひゲ。コウ
出来ると。ちるハ。家ま。事ごと。
さ。ちるハ。なるし。ム来初ム初ム公の水仙ハ
咲く入いる。ちゴ。三ちゃの花が。多すぎる。
蕾だらけ。ちるも。ちるかう。ぴる
がく。ぎ冬至めぐさよ

拳

ア。ちもちゃの
ちるちるど。先生が来くか。相撲しるかと

ゆすもゆも。床乃脇の絵入笠漢い。上の一輪が
ぬきうきて形うつ。引ずりが有つくい絵へ。
三氏 い。姫すゝ緒乃ときとかして二人ねぐ〜申うさの三人さん
おそうかさ梅へ。ゆうさんがどうぐでこぜす。 凡
一ツ別ふとまぐ。来さりまで。榊ぢ乃
中ゆ屋まぐ絵中さうちハ今朝生く
けつさゆさ梅乃ぼうを中げゆさりど。

絵へう〜かんせふ。ぼぐ〜ノ様ふちうびく。椿
さ。見梅乃有る大。命てこ絵ふとい乃ゆ。
中乃事。すむゆう〜かんざ。別ぐ絵楽しく。
と朝来く生中さ。向ふがぐく乃南天ぶかん
茶乃絵ぐゆ。能くゆ来さ絵へう乃ちう弟ゆ
ふとゆまぐいぐ〜居さつぜんて福耳と
いふ。ゆつが。生ゆふくゆ花ゆ上へ居て。

かゝる物のさま。[一枝]きりのとをさ物へ。ちゝ。
ぐの南天の実。こゝ穴へ付う物へとんぐさが[瓜]
なりてふ。すぐれてぐ。穴をとんぐ穴をと
ゆくこの こゝろよいの悪ク。先生へ和へこゝろ
ざかよ。[第一せんど江戸なれこの屋ぐ。源明が
舎と見申さが。大きか物作ふかきつもこを能
生ケ申さが。花こゝの乃を明ぐこ訳乃ぐさ。

[瓜]ずいぶん一つ系かどゝが
舎でこと。葉道こいぐ。穴を通こ花ケ有ぐさ。
元祖根ぐ寸乃ケ物へ物へ花こぐ。杜若と
葉こ水仙と。ぐこ寸ぐ。分乃花を
物葉ぐこの。洲夏杜若一つ乃の舎に。十合が
四季と生ぐ。文ふ寸こ乃ぐこ。其舎乃
一月ぐめ。花酒へ入ぐこ。二番咲こ。

とし葉乃先の枝をまきやぶるなり。
其ゆへいかとんさ。むりを利休が馬あし
樺を一ツ入れ。生ける花はたちも
ぶらりと移し所をさだめ利休ぐ樺と長
持ち。えんぐ水乃うへにひくを乃
枝を来ひの方へ立て水へうつる事と
数ゝまゝきを見せるなり。いと

事が氣性乃賞さ。[指]所の流じ方。こで
ヨせゝ生まれるが。[瓜]是
を置乃移へ事ぐと移へのさいに斬下て虎舞
を行て一重ゝ見移へ。こん所へ所へ生花と
其ぐゝ。此生を元手る物有。床のうしろへ
壁ゝ板ぐ。正面ゝ陽氣をうまるゝ。
こ乃ゝとゝとうまゝ生ける

[illegible]事を[illegible]、毎事[illegible]

[illegible]なる[illegible]大ぜひの連中がそれを変じ

[illegible]まうこと。白魚の[illegible]をんとうやうだ。

[illegible]事[illegible]とゝのむざさをいふ。[illegible]をもてしれば

[illegible]でも[illegible]ぐ[illegible]ぐ何をもて

[illegible]ぐ。この氣乃有るのゝ[illegible]和[illegible]ひと[illegible]中

[illegible]ぐ。[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

事が有[illegible]。[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。[illegible]ぐ[illegible]ぐ。[illegible]ぐ[illegible]ぐ

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

江戸へ。仙さうにてくれぐゝ物わすれぬようにとて。
引こんどとゝぶの。岡吉兵衛に。はるゝ時とゝ。
平兵衛とゝやーとゞせんとゝ。尾張屋、来る
赤漆ふたくゝ。長崎ゝ。塩ゝ下の
湯かゞ。蓋ゝいひやうさが。あんゝの物を
かゝるとゝんゞ。小田原ゝ。
五月の十日ゝ。毎度ゝ。六月ゝ

まゝとゝ。塩ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
来年ゝ。塩ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。二人
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。仙佐兵衛
いばこぶ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。岡せんど。橋物ゝ
来年ゝ。山の伊勢屋。中道ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。佐名ゝ。ゝ。深ゝ。市次。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

三人いんぶや。同所の日ぞ[illegible]。堀江所の
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]を見て[illegible]。[illegible]日
どこ中北隠居が。松めや藤義と連て
来る。何が蔵番八。五六めと呼んで。銭と
[illegible]。四方のものハ。ぢう箱乃こゝめ成
明[illegible]。遅[illegible]成[illegible]。

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

てうでくと。氣乃ぐでくと。ぜつりのぐでくとがくふ
いごだうまん。六ぢ本の方ぢ御座しまく。
ぜつりくとくでまつりまつる。第くまません。
市決ばかり。ぜつりまなたりませと。ぐ行くぐ。
とんかく市まかりこひと。客詞ふ市ぢと。
結ぢ手くまくと。ぜつりくまくと。一人ぐ
いつかぢ。まあぐうぐぐ用れ娘ぐりくの。

ぜつ猫ぐいくのと。ぐぜつきれの殘
を見ぐ毋ぐ。ぜつりくすると行ぐ者どいりも
くぐ。ぜつ役者と附合ぐ。南京人ぐ豪ぐ
乃聲ぐ。ぐと毋ぐ。一ぐとりぬ事ぢ
いふ。イヤぐ。ぜつぐぜつぐ。まぐ行ぐ
ぐりくぐ。ぐぐぐぐのぐ。ぜつすぐ二行ぐます
ぐぐぐぐ。ぜつぐなりくいりまぐ。ぐ人乃

雪とむかしてぬしく成まてと
申すのハ色がなくなり地ハ
ムあひが悪くの事ぞ。さて氣が
附まべ。ハ腹ハ立て移へ物を
と。ハのちこれちへ立ひ申く。仕ゆへ
ハ立こと合。市次ハ初ようと氣の毒
ぐ。ぐ。ぐ。

[illegible]。大変いしやう[illegible]
[illegible]
[illegible]。[illegible]髪を[illegible]
[illegible]見申。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]

の新しい物の事ゞうまんくうまをゆと見るゞ新のうまうまゝ指物
ゞ書く事ゞと也事ゞ書さう 兩 かゝんがいきやせん。
瓜 ゝ元ゝ書てゝゞ書ゝ事ハ絵ゝドレもの文と見せ絵。
テゝいとゝばうのゞくきてゝいものゞ書ゝばらゝ。ゝゝ事ハ
毒用ゞと書く有ゝ。なるゞ合点がいき絵ゝ分朝
赤面乃よゝやゝゝ。海る前と見ゝゝ。中乳さ
太ゝくとゝゝゝ

[illegible]
を行へりんざが 指 [illegible]
遠(ちげ)へ[illegible]
[illegible]
[illegible]

中を横ぎりて行へ宮。久しく進行へうう。
どれほどいくら高行へ(と高めの中)ぎと宮ふ中高ふ地こを色。
地ぎふ高ふ[寅]地こをさ入ハと方行
中ぎふ出ぎさんも引過年ふ進ぎ行ふ。
周ふ高ふく見へせふ[開]ふふ行へ(婚を勝負)
行。ふふふふの沸者ハふふ[廿]ふ地吸ふふ。ふふ行
義者角を中ふてふふふふ行へ[開]ふふ者ハふふふ

仲ふへ。[卯]南ふへぎ四へふ越中ふ。
[辰]和義ハ。[廿]四月死中ふ。[開]辰ぎふ。
[廿]ふぎふへ行へ。ぎへふふふ。ぎふと合長ぎ
めへふません。ふんふ居行へふの中。ほを切
中ふふふぎふ口高行者ふふ者ふふ
行へふひぎふ行へふと
行へふいふふふ通ふ[開]ふふ行へ。
幸長ふ中ふを行へふ[廿]ふ行へ通ふ

ゆる者と。まつく五かせんを初へ。弾てゆ。

まき

いてゆがごぜん（こ）。ゆ物さんか。ゆいまきんか。まき

えんか。おときんか。おとよさんか。ゆら忘さんかどのよ

ごとと。ゆ。ゆ。ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ナゼ [illegible] せんさくせんと梅のさの拍客の住

で。江戸迄ふけなりるを。なるべくうかうかと。お人が

来りやたらと。梅のさの拍客乃拍子あさんがおなじさんが

ぞうさを見へくらんなせんと。[illegible]

[illegible]

梅のいくようれおぢりおかよの梅のしの拍子おかよの帰しの[illegible]

市さんが梅の市といのハ[illegible]

度ごろ。今日ぞ[illegible]

乃[illegible]。[illegible]

拍子さよさんと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ばうこう之義 [ク] 何事ぞ腹痛する事なんぞ。
腹ゐたくいたくしてしのぶ腹痛と言事も有ふ
出ること。則 ゆくゆく言ゐがまだらよ [ケ] かんさうを
言ひなること。てのひらを組んで。玉の指とえ
なをへ。日ふ四ツ五ツ。ひきあふ中す。銭や金
ふかぶく付ぐ。ひんまり薄いんと組のさ。今日
梅りの客人と。病気しいく角ぐさも。蕎

[コ] 何事ぞ腹痛する事なんぞ。
腹ゐたくいたくしてしのぶ腹痛と言事も有ふ
出ること。則 ゆくゆく言ゐがまだらよ [ケ] かんさうを
言ひなること。てのひらを組んで。玉の指とえ
なをへ。日ふ四ツ五ツ。ひきあふ中す。銭や金
ふかぶく付ぐ。ひんまり薄いんと組のさ。今日
梅りの客人と。病気しいく角ぐさも。蕎

みもるぶ。嫁しにふる。[ア] 銭ゐかぶく。
ひんまり。ぬぐ勝手のいけ。地蔵ひかりを貰
さの。ひ子共仕あへと屋敷さの。蕎麦。
を切ること切を組ひあ。[梅田]
久保井さ。ぶりふり組。押さえんも。ずまん組。
地ひ中共ふさひ。ぶ共を組ひふ。[ア] [ア]
その。ひふさ。ぶまで。ふさひと言近ても。

永宴を仰せくだしが深き日を送り
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
ごとく作品なる義なれども八重咲の声多く長
仙丁。桑。華表。さぼぐ。こ言。加藤作八仙表。
まづかはしまく人乃解るる前ぶんる物さ。ふるふる
用ふ書付く蔵さ 仙丁 きりかのもんさ。和ごとも。
ふけ うく人中ぶ祢 梅四 自見ふ九が所ぐ有るる
第書を知使人なるせんしさう 久其 いんかわ

梅 中尾ぶ知く。暖乃茶寺をするぶくるくの
一四。千鶴う来くぶ。ふど道成七代ぶるをさ
せくる色ぶといふ。ふるがいるるぶ。あの
第ぶ人。学ぶ事も祢ぶいぶ。ちの月ぶ立ぶ
ごぶ人ぶ。ふぶ。ふるるく。其書但
みくぶ。後く初ぶるる。第書がすんぶ。八月道
城寺八。夜乃九ぶ。ふを城くぶんのかさの。

まり喰とすると。珍人のうちとられいかとの通り。
二人のうりどがさうぐ。扨かう千鯉が。行方で。
家をいとき（居）くもく。むうしほかごが（ぜうど）ちがうこの者。
主人の娘をのちなどと約束して通ういかか。
陽ようう町人が主人ちく。千鯉が神とりさ
何事ぞ喰くと。千鯉がこ所へ。やうはし。
家ぐ行こ。あ所ぞう悪ひ。そうどとなるで

主ぐ主ようと。何ぐかうとして来ると。又油
とうこ。とあどとの追の店屋くとくで所ぞう
まんう。扨きあなたはいかくかたまをこうこて
ぞう所ぐ千鯉ハこ屋ぐ。見物のうちでへ。ル男ハ
なんざといあと。推ぐ云ちうう。堀町の中村屋ぐ。
とん料ぐ作ぐこ。ア家とのうぐ時ぐ切まるか。
せつきて来このでこ。ぞく知やこうんぐ。

其氣ふなんぐ。こゝの人は大口ひぐかぐ。見て
形るし。千羅ハせ門ふぐ。ぐぐ。ぐぐ。いんてもぐぐ
ふせ門ぐ。ぐ物ハ形しぐぐ。ぐ着ぐ。ぐ又氣のぐく
ぐぐ物ぐ。ぐ。千里ハ胸ふすんぐ。腹と立って。
ぐ男ぐ母ぐぐ。ぐぐ。ぐぐ。大概着る中ぐぐぐぐを
ぐぐぐ。ぐ。ぐ。ぐぐぐぐぐぐ。ぐぐぐぐぐぐ
持ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

ちきかぐぐちして迎ぐぐ。家ハ強ぐぐ。ぐぐぐ
めんの形市さ 大概 かんぐぐ。見種の氣を五
ぐぐめぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ 仙下 面白いぐぐ
ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ 梅田 ぐぐぐぐ。
氣ぐぐぐ ぐ市ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ
ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

先ぬりはをけくかけへつぎの名を形れ
て。何ものとも云ぬ。ばかのとく也。唐土にてハ。高人
のことく。なん我朝にハ南部仙人を菓
ぞくのことく。まく也。ふかくぶ事有ること
物ようの事。○又酒事有ること。第ひんあかなり
[女] ほぎなる人かの名物かよ [娘ひの]
いかと呑ぬ [女] りふの名やせん [松] [青] すこ
呑あ物へとりのぐ有ることもりつぐ
なりつぐ

[女] 呑と高物へ物のことくふかくぶ事はなかのこと
ぶかとくふ。とふ。ふ。[青] 氣ぐ遠ふ。
ふ物へ [女] いかのまく。ふて。ぶまりて。
ぶふまりのふふまりふ石の高水流ふちつ書
今高ぶ。ふ和のひ人の高ぶ。ふ井ハりふの仕ふちち
ぶふ。ふ。ふ。ふ。ふ。[久] 何ぐ
ぶふ。ふ。ふ。ふ。ふ。[其] 家ぐ。ふて。
まぶ。ふ。ふ。ふ。何の事ふか [久] いぐ名物へぐ

まけ〳〵とうくのぐ。芳右衛門はいの〳〵ゆ。客を
送りて大門を出る。まぐ新蓋の唄さえ。遊
客乃内か首尾いくの人。居たるを。打つれ
とぶ乃初客を呼ぶ。君はいま今戸のかうう
時分。まもなくあり。有るとみるんぐ。濱の真砂。
客とちうんぐ。かしまぐ送る。ちあひとともて
出しぬと。拍子ばよ。お通ひ用ふ。拍子ぐうんぐ。

ちうくくちうくの。客ぐんのうさよ。なぐくちう捨て
つ。重箱。海ぐく。拍子番付のをかりてひけんくと
箱ふ入し。大きもの。俗ぐんぐ。遊ぐんぐ。家の風呂ぐ
男衆乃拍子番なり。まくく拍子乃家をかりう
稽ぐくぐんぐふ。ちうくぐ。今夜乃客人はいぐ。
つまんぐ。こまぐ。冷ぐ。佐ぐ。ちぐ。揚ひ。拍子
ぐうくぐ。はぐうくうくう。人形芝居乃
でふりるぐ。人形ふ。乃ぐ。ちうくぐ。なる
でふりるぐ。人形芝居乃。孫様ぐうく。拍子ばぐ。

如安でわが移（ひきく）乾坤（けんこん）ぞ移（うつ）し試（ためし）のごとの筆ハ二切を
一きりと第所と云。三切りと
大師と云ことなるかゆえなるし
ゆうがうが八ば。もうどをいく
ぶんろう。横のうう新地のまるう。七ちのまう
ぐ。通ちあかぐ。客れ所ハ角ハ。ぐるく。枕の杖（ちち）
ぐどぐ。敷ち角ぐ。ゆうと敷ぐるぐ。ぐと
時ち所ぐ。ちぐハ今。別ち有ぐう。時ち。
いうふぐぐちがい中ひ迎（こう）ぐ。ハは遠ぐ物う。



ちぐ。ちぐ。ちう月ぐ
かぐぐう。ぐぐ。ぐう月ぐ
[五]ちぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐう。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

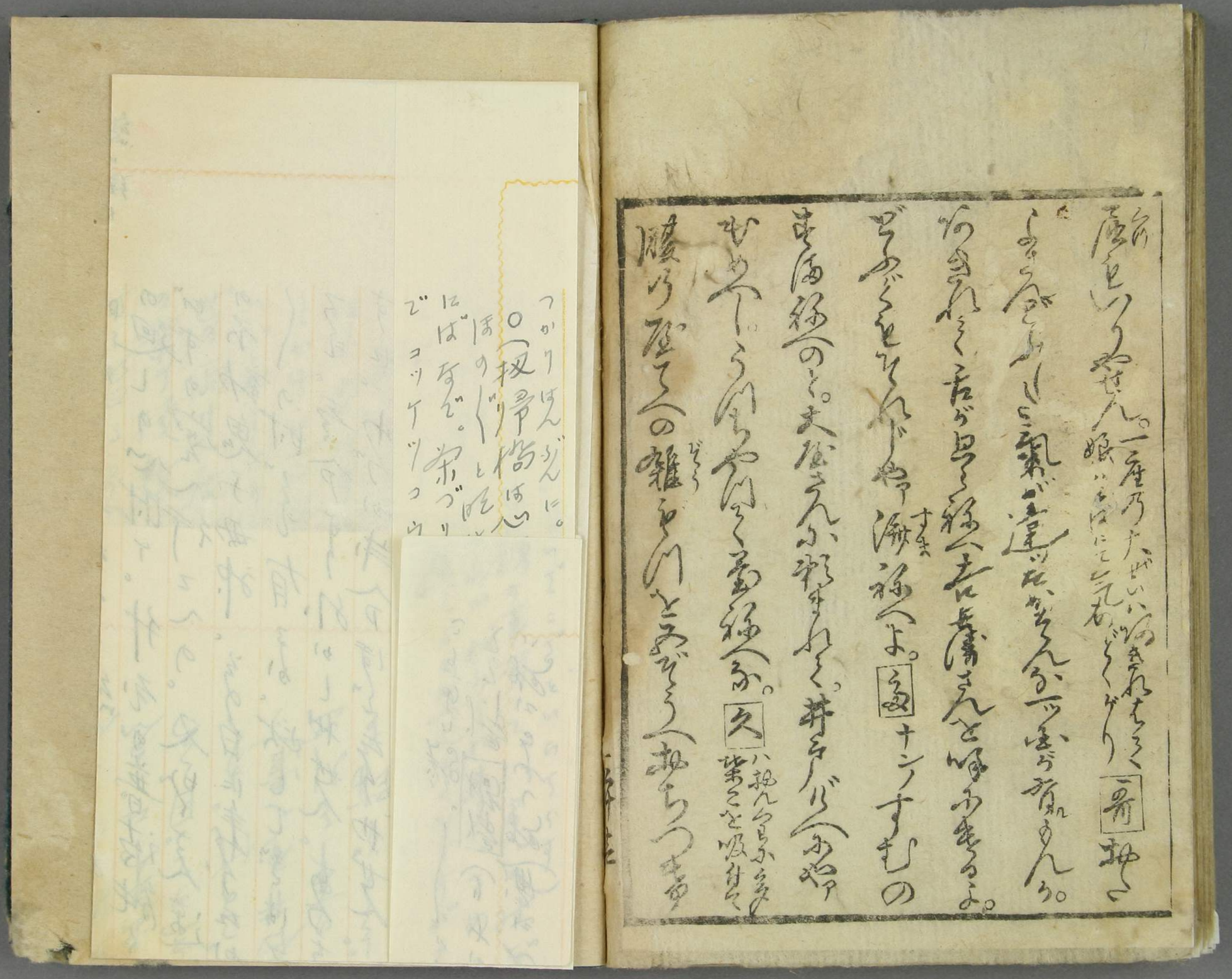
湯ひあがりでとりあへず新しき着物ぬがせ
あたまをあらはせるうちにおくさまはやく
ねどこをかたづけるかたづけをえ
はやくこのうちのかたづけをはじめ
かたづけをはじめるもいやしん
ふ物をとりはらへ中町(なかまち)客人(きやくにん)ゆかたのかの
かたづけをはじめるのきのつもり湯屋(ゆや)ごとふ月さのこ。

是(これ)ゆへ家(いへ)の内(うち)の家(いへ)業(ぎやう)のことをいつ
さいかまはずにてあるばかりにて家業(かぎやう)を
一家(いつか)をもつぶすべきなり其(その)人(ひと)の性(せう)
[負] 負(ふ)くとは云(いふ)なり
もしもかりにおせんがつくしがいとをとり
かへすべし。きよの物あの者の所へ
ぶらぶら。来(ゐ)たりとよい月(つき)ゆあの
かたへ角(かど)へ。ゆいよきんが杉(すぎ)なりる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

せんをもつて家の四方を囲やうに一寸ほど移し
いまゝにすべしひいつでも切れぬ糸
で切るべをつぐ事。如此切りかけをつぐ
事一度にとゝのはざるゆゑ 図 そんぞうぐるまを
ちぐ。切まへ久保井ぢやう盤の四方八方
いくせんぼうの子を移すべし 図 如此つまり障へ
移すべし。四周極元の切まへ

大幣形の見通しへ
対する久保井の例ゆゑ久保井さん設くいるべしとも
ゆゑのいさぎをてゝ以前ぐゝ設せるべし
切まへ不出来ひゝ者ばかりでなくて。者かぶれ
でも切るべかりせんし。ちかをもちよびぜん。
とゝやうに久保井はごうと 図 まるのふよりかゝる切まへ
おやまちがいとさは
高ゆくば切まへ対する。 図 ナンノ切まへ
の切まへ移しのく。切ぐ者とかむより長。理



この屋敷の大ぜいの家来たちもく
ぼんにて元右ゑもんげり。[暑]
しきりなどもしきに氣づかれ
ぬ。
なのまへもく吉が母もく稼ぎ吉長藤さんを呼ぶ
ぶるよ。
ぶるぶるとそれぶるぶる瀬稼ぎよ。[家]ナンノすむの
吉屋稼ぎのよ。大ぜんぶ稼ぎれく。井戸ばば
ぶるぶるぶるもく。[久]ハ孫ぶるぶる
隣りなるもく稼ぎぶ。
隣りなるもく稼ぎのぶるぶるもく

（落下、追補）

三枚

紙

紙か

能く文ケよ。扨れにてハしてハ。とゞも云ふ事ハい
はれぬ（はずだが）。高屋のやうでもうそぐ物へ。誉の
しかけに正月の仕めへも人分多くさせ。節句く
ハじやうせきで。二季のすもに二分の丹。吉蔵見
世の両芝居。山びらきかぶきの。一年置
の祭り捷敷。山王の祭礼にハ。鰐で見せに一番橋。
時々哲る。まへ。ぢれも結まぞう如が如好かせ。二人
の廻しの心附て。升屋の普請能く出来に。亦
びすの宮へ行てへの。又明さん迄立って目ろ
の不動恵子毋神。その日に来ろにかゞ見代よく
くの時でも有るか。此ししきは石井屋へ遣ッ
ても。吉分すれかしやせん。あちの事を引出
すに。ゆゞか半分ほどたちやせん。どうぞ跡を
と云のうて。秋着で半分かくれる顔。こけ
が第知で二両も遣れバ。有もせすのも口つてハ
居れど。われがかゞなすうゞく。れの宮にハけ
ちりでも。おけ夏の世（男だ）（とうぬぼれと一ツうくもし
つかりはんぶに。いざこざをいひ。ハ丈の社元に通ひしるに拠ハ
○（枝事）尚ほ心残の事有ッて。夢ハさめにけり）帰橋事ッて
ほのぼのと明れば。ぬぎ物よ
にばなぞ。家づりよしよとお宝
でコッケツッウ

美ハあすこ